HOKKAIDO UNIVERSITY

Title	気管内吸引動作の言語化による呼吸器アセスメント時期と方法の実態
Author(s)	コリー, 紀代
Citation	日本看護管理学会年次大会講演抄録集, 13, 84
Issue Date	2009
Doc URL	https://hdl.handle.net/2115/53410
Type	journal article
File Information	nihonkango-13-84.pdf

Hokkaido University Collection of Scholarly and Academic Papers : HUSCAP

口演 8-5

気管内吸引動作の言語化による呼吸器アセスメント時期と方法の実態

コリー 紀代
北海道大学

【はじめに】先行研究「気管内吸引技術の動作分析による乾燥法と浸漬法の比較」において、気管内吸引動作がただ痰を気管内から除去する動作のみならず、カテーテルの清潔動作、呼吸状態の観察を同時並行で行うマルチタスク動作であることが明らかとなった。本調査では、気管内吸引中の呼吸器アセスメントの時期と方法に焦点を当て、気管内吸引中に看護師が実際に行っているアセスメントの実態について明確化し、指導方法の改善に役立てることを目的とする。

【方法】カテーテルを乾燥させて保管する乾燥法と、カテーテルを消毒液に浸して保管する浸漬法それぞれについて、先行研究から得られた吸引作業表を使用して、各手順において必要とされるアセスメントの内容や判断について文献等を用いながら抽出し、内容の類似性に従って分類した。倫理的配慮としては、先行研究において対象者からの同意を得た後、分析を行った。

【結果】乾燥法・浸漬法の両者において、「手袋をはめる」「三方活栓を開く」「水を通す」「呼吸器または人工鼻を外す」「カテーテル挿入」「手袋を捨てる」の6つの手順施行時に看護師がアセスメントしていることが明らかとなった。表1は、6つの手順施行時におけるアセスメントの内容と判断を示したものである。カテーテル挿入時には7つのアセスメントの視点とそれに伴う判断を要求されており、瞬時に多面的な判断を要求される技術であることが明らかとなった。

【考察】乾燥法・浸漬法というカテーテル保管方法の違いによるアセスメント施行時期の差は認められなかった。これは、酒精綿の取扱い、万能つぼの開閉等のすでに決定された順序で行う作業においては、アセスメントを必要とする機会がないためと思われる。また、7つのアセスメントの視点とそれに伴う判断を要求される「カテーテル挿入」が吸引初心者の技術指導における要点と考えられた。

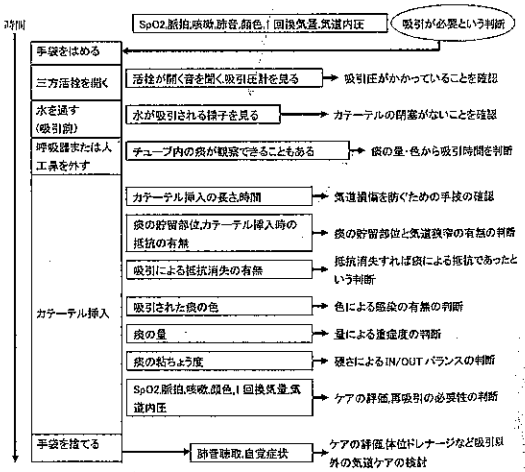

図 吸引作業表から検討したアセスメント内容と時期